

市の取り組み

皆さんの身近なところで、若年性認知症に関する様々な取り組みを行っています。

たんぼぼ カフェ

～若年性認知症のご本人とご家族のつどい～

一人で考えているとうまくいかないことでも、同じ思いを抱えている仲間がいると、本当の気持ちをはりやすくなり、気持ちが楽になります。

本人も家族も気軽に参加できる集いです。医療・福祉・介護の専門職もスタッフとして参加しています。ぜひ参加してみませんか。

●日時 偶数月の第2(土)午前10時～11時30分

●場所 図書館

●対象 若年性認知症と診断された本人、その家族(65歳未満で、確定診断はなくても物忘れ等に不安を感じている人も参加可)

●その他 事前申込みが必要です。詳細は高齢福祉課へ問い合わせください



企業・一般向け

若年性認知症に関する学習会

若年性認知症と診断された人が、慣れ親しんだ職場や人間関係の中でできるだけ長く働けるよう、周囲の人への理解を深めるための学習会。今年7月に文化センターで開催し、企業関係者や介護専門職の人等が参加しました。在職中に診断を受けることのメリットや相談窓口の情報等の説明、具体的な事例の紹介等がありました。

●参加者の声

●若年性認知症についての知識を持つことで、働きやすい環境を整えることができると感じた

●周囲の理解がなければ、自分のことを安心して打ち明けられないのだと思った



「知ってください! “若年性認知症”のこと」を開催します

●日時 11月30日(土)午後1時30分～4時

●会場 アンフォーレ本館

「若年性認知症の人が書いた本」の紹介

若年性認知症と診断された人が、自分の気持ちを自分の言葉で発信しています。夢や目標を持って生きる本人の言葉は胸に響きます。ぜひご一読ください。



若年性認知症のご本人との座談会(午後2時)

当事者である近藤葉子さんとそのケアマネジャー、山口喜樹さん(県若年性認知症総合支援センター若年性認知症支援コーディネーター)を招いて、毎日前向きに笑顔で生活する秘訣や工夫等を語り合います。

認知症カフェ交流会(午後3時)

「たんぼぼ カフェ」を含む市内にある認知症カフェについて体験・紹介します。



※市では、認知症への理解を深めるサポーターや、認知症カフェのお手伝いをしてくれる仲間を募集しています。詳細は高齢福祉課へ問い合わせるか、本紙9月15日号7ページを参照してください。



まず知ろう

「若年性認知症」とは

65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」といいます。気になるサインがあっても認知症だとは思わず、疲労や更年期障害、うつ病等、他の病気を疑っているうちに発見が遅れることがあります。

このようなサインは、認知症の可能性がります

職場での変化

- 作業に手間取ったりミスが目立つようになったりする
- 職場の仲間や取引先の相手の名前が思い出せなくなる
- 指示されたことが理解できなくなる
- 約束を忘れてしまう、忘れ物が増える



生活での変化

- 財布や鍵をどこに置いたか分からなくなる
- 身だしなみに無頓着になる
- お金の計算や漢字の読み方が分からなくなる
- 車の運転が適切にできなくなる
- 知っているはずの場所で迷子になる



相談しよう

ひとりで悩まず、1日でも早く相談を

若年性認知症を発症しても、仕事と治療の両立への支援を受けて仕事を継続する人や、一旦退職した後、ハローワークや障害者相談支援事業所等の協力を得て、新たな仕事に就いたり社会参加をしたりする人も増えています。また、同じような悩みを抱えた人達が集う場に参加することで、認知症とともに生きる新しい人生を見いだす人もいます。自身や家族等の変化に不安を感じたら、早い段階での相談をお勧めします。

どこに相談したらいいの?

- 愛知県若年性認知症総合支援センター(大府市) ☎0562(45)6207 (月)～(土)午前10時～午後3時(祝・年末年始を除く)) 経済的な支援や、「仕事・社会参加を続けたい」等の要望に応えるため、適切な制度や支援機関につなぐコーディネートを行います
- 若年性認知症コールセンター ☎0800(100)2707 (月)～(土)午前10時～午後3時(祝・年末年始を除く)) 専門の相談員が相談に応じ、医療・介護、生活支援、就労支援等の支援に結びつけるための情報提供を行います
- 市高齢福祉課地域支援係 ☎(71)2264

当事者の方に聞きました



近藤葉子さん (たんぼぼ カフェ参加者)

変化を感じたきっかけ

50代前半の時に若年性認知症と診断されました。自分の変化を感じ始めたきっかけは、仕事をしていくうちに、頭にインプットできていたスケジュールが覚えられなくなったり、初歩的なミスが重なったりしたことでした。また、当時既に認知症になっていた母のサポートを通じて認知症のことを知ることになり、自分にもいつか当てはまることが出てきました。薄々感じていたものの、診断結果を聞いた時はショックを受けました。

現在の生活

認知症といっても症状は人それぞれ。私の場合は、記憶力の低下や整理整頓ができないこと等。お金をしまっておいたことを忘れてしまい、「無くした」と言っ慌てたこともあります。

普段の生活では、火を使うことや買い物は夫にサポートしてもらっています。大切なことはこまめに書き留めたり、一人で出かけた時に困ったことがあれば、すぐに人に聞くようにしています。また、認知症対応型デイサービスも利用しています。周囲のサポートを受けながら、積極的に外に出て、今も元気に過ごせています。

それぞれの人ができることを

自分の変化に不安を感じている人は、身近なかかりつけ医や地域包括支援センターに相談してみるのも良いかと思えます。家族や職場の人等、身近な人の変化を感じた時は、様子を見守って、本人が困った時にいつでも相談できる雰囲気を作っておくことが大切。相手が知らない人でも、困っている様子を見かけたら、「どうされましたか」と声をかけ、必要とされれば手助けをすること。そんな当たり前のことが、認知症の人にとって大きな助けになります。

多くの人に知ってほしい

もっと多くの若年性認知症のことを知ってほしいです。私自身、講演会や様々な集いの場で、当事者の立場で話をする等の活動をしています。安城で講演をしたことがきっかけで「たんぼぼ カフェ」にも参加しています。認知症サポーターのしるしである「オレンジリング」をまちで見かけると、当事者としてとても嬉しくなります。持っている人は、ぜひ靴等見えるところに付けて持ち歩いてほしいですね。